

令和2年度 厚生労働科学研究費補助金(がん対策推進総合研究事業)
思春期・若年成人(AYA)世代がん患者の包括的ケア提供体制の構築に関する研究
分担研究報告書

AYA 支援に関する医療従事者教育の研究

研究分担者 吉田沙蘭 東北大学大学院教育学研究科 准教授

研究要旨

医療従事者を対象とした AYA 支援の体制づくりのための研修プログラムを開発することを目的とし、AYA 支援チームの立ち上げを予定している施設を対象に、パイロット研修プログラムを実施した。また、過年度の研修参加施設を対象としたフォローアップ調査の結果より、チームの立ち上げ準備期、立ち上げ期、発展期、それぞれにおける体制構築の課題が明らかとなった。本研究の成果をもとに、AYA 支援チームの体制づくりを支援するための政策提言につなげる予定である。

A. 研究目的

AYA 支援体制の整備が求められているが、新しい取り組みであるがゆえに、現状十分な支援体制が構築されている施設は少ない。また、新規に支援体制の構築を検討している施設にとっても、どのように取り組むのが効果的か不明であるため、困難な課題となっている。そこで、本研究では、医療従事者を対象とした AYA 支援の体制づくりのための研修プログラムを開発することを目的とする。

B. 研究方法

AYA 支援体制の構築を検討している施設を対象に、研修プログラムを実施し、その効果および今後の課題を明らかにした。

令和2年11月に、14施設を対象とした研修をオンラインにて実施した。研修前に、各施設に

おける AYA 支援体制構築のための課題および、短期的・長期的な目標について記入する課題を課した。研修では、AYA 支援のために必要な、がん生殖医療、長期フォローアップ、心理社会的支援・ピアサポートの3課題に関する講義を行った。加えて、モデル施設に所属する班員により、シンポジウム形式にて立ち上げ前後における課題やそれに対する取り組みを先行事例として紹介した。なお、モデル施設の取り組みについては、事前学習として動画の配信も行なった。その後、支援体制構築のための課題や解決策について他施設の医療者とディスカッションを行うグループワークを行った。研修後、講義およびグループワークの内容を受け、各施設での短期的・長期的な目標を、同施設からの参加者同士でのディスカッションを通して見直し、事後課題として提出を

求めた。

加えて、過年度に実施した研修会の参加施設に課したフォローアップ課題をもとに、チームの立ち上げ・発展に関する短期的・長期的な課題と解決策に関して解析を行った。

C. 研究結果

AYA 支援体制構築に際しては、①体制づくり(13/14 施設)、②人材の確保と育成(11/14 施設)、③院内の診療科連携(11/14)、④地域連携(9/14)などが、多くの施設に共通する課題としてあげられた。

AYA 支援チームの立ち上げ準備期には、①組織内での AYA 患者の実態把握、②立ち上げメンバーの検討や候補者への声かけ、③窓口の明確化が重要課題となることが明らかとなった。また立ち上げ期には、院内の体制整備として、①診療科の連携強化、②院内広報、③スクリーニング方法の決定と実施などが主要課題となることが明らかとなった。最後にチームの発展期には、生殖医療、家族支援、就学・就労支援、ピアサポート等の特定の支援の拡充とともに、院外のリソースとの連携を強化することが有用であることが示された。

D. 考察

令和2年度の参加施設から得られた課題の内容は、過年度の研修に参加した施設と概ね同様の傾向にあった。COVID-19 の感染拡大を受け、オンラインでの研修会開催となったが、対面での研修と同様に、先行施設の活動を共有し、グループワークにより他施設の医療者と情報交換を行うことで、課題の明確化や、具体

的な取り組みの検討が促進されることが考えられた。

E. 結論

本年度の成果から、モデル施設における実際の施設の取り組みについての情報が、特に立ち上げ期にある施設にとっては有用であることが明らかとなった。また、AYA 世代患者の支援体制を整備するにあたっては、それぞれの施設の準備段階に合わせて、必要な情報を提供していくことが有用であると考えられた。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

該当なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

該当なし